

優勝したダスティン・ジョン・キッドさんによる弁論の様子。24日、出雲市大社町北荒木の、大社文化プレイスつらら館で



外国人が「日本人への提言」

第1回全国弁論大会、10人が熱弁

第一回「神話博外国人による『日本人への提言』全国弁論大会」が二十四日、出雲市大社町北荒木の

ダスティン・ジョン・キッドさん、關聖中・高松教諭だった。

大事に育て、花を咲かせよう」と述べた。

食料問題などをテーマにした「日本人への提言」が次々と発表された。

十三年間日本に在住し、幼稚園から短期大学までの教育現場に携わってきた経験から、「日本の学校は権限を越えてきている」、「保護者は学校に任せすぎ」、「バイト禁止はやめるべき」という三点を軸に、現在の日本の教育における欠点を指摘。「学校が本来の権威を取り戻し、家庭にも教育力が戻ってくることで、日本の将来を担う次世代を強くできると思う」と述べた。

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について「教育委員会、学校、地域社会に鋭く切り込みながら、ユーモアをもって事の本質に迫った」と講評。「今日は素晴らしい提言を皆様

にいただいた。これほどのように生かすかがこれからの我々の課題」と語った。

キッドさんは「普段考えていることを、こうした場で発表できたことは大変喜ばしく、我々が発表した内容を、どこかでまた思い出して話し合ってもらえれば、受賞の喜びを語った。

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について「教育委員会、学校、地域社会に鋭く切り込みながら、ユーモアをもって事の本質に迫った」と講評。「今日は素晴らしい提言を皆様

大社町北荒木の、大社文化プレイスつらら館で開かれ、留学生や国際交流員など、日本に在住する外国人たちが、それぞれの視点で日本のまちづくりを提言した。第一位となったのは「日本の教育現場に提言」と題して発表した、松江市在住のアメリカ人、

審査委員長は、あいさつで「日本文化の原資が眠る」と出雲で、これから弁論を行う彼らの声を聞き取り、今日こ

「古代歴史を活かした観光施策についてを皮切りに、文化、教育、

審査の結果、第一位となったダスティン・ジョン・キッドさんは、

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について

審査委員長を務めた小松昭夫氏は、キッドさんの弁論について